

2023年2月24日（金曜）

全労金2023春季生活闘争ニュース・第2号

～勝ち取ろう賃金改善！“みんなの春季生活闘争”で生活不安を払拭しよう！～

全労金は、第1回中央闘争委員会において、全単組の方針を共有し、
具体的な戦術「当面の取り組み（その2）」を確認しました！！

◎単組2023春季生活闘争方針等を共有しました！

全労金2023春季生活闘争は、40年ぶりの物価上昇を背景にした政労使からの賃上げ機運が高まる中で展開する闘いとなっています。こうした社会情勢を踏まえ、全労金方針は、労働組合の社会的役割発揮に向けて、「統一要求課題」として「最低賃金／基本賃金の改善／年間一時金」を設定し、「統一闘争」を展開します！！

第1回中央闘争委員会（2月21～22日）では、全単組で2023春季生活闘争方針が確立したことを受け、「要求内容」「今後の交渉日程・交渉メンバー」等を共有しました。

◎具体的な戦術「当面の取り組み（その2）」を全体で議論・確認しました！！

第1回中央闘争委員会では、第77回中央委員会（1月25日）で確認した「当面の取り組み・その1」のうち、具体的な対応として示す「当面の取り組み・その2」に関して、i 全労金の取り組み、ii 単組の取り組み、iii 共闘体制、iv 統一闘争日程の対応、v 要求課題に関する補足、等、具体的な戦術を全体で議論したうえで、統一要求提出日（2月27日）に、全単組が一丸となって臨むことを確認しています！！

【深見中央闘争委員長の挨拶】



【第1回中央闘争委員会の様子】



◎連合の特徴的な動向・・・政府・経済団体等と意見交換を実施！

連合・芳野会長は、2月6日、岸田総理大臣と面会し、春季生活闘争に関する意見交換を実施しました。芳野会長は、賃上げ機運の醸成に向けた政労使による意識合わせの会合の開催、並びに、この間実施されていない「政労会見」の再開を求め、岸田総理からは「前向きに考えたい」との意向が示されています。

また、2月8日には、2017年以来となった日本商工会議所との懇談会を開催しています。日商の小林会頭からは、「物価の高騰をひとつの契機としてデフレの状況を変えていかなければならない。そのためには中小企業の賃上げが非常に重要であり、日商としてもできるだけ多くの企業が賃上げに取り組んで欲しいと考えている。労働組合の立場からも取引価格の適正化に声を上げ、経営側に働きかけていただきたい」との考えが示されています。

◎連合は、2月16日（木）に中央闘争委員会を開催し、当面の闘い方を確認！

当面の闘い方では、構成組織（※産別）・地方連合会は、すべての加盟組合に対し、2月末までに賃金水準を意識した要求を提出するよう指導すること。加えて、ヤマ場である3月14～16日を含む「先行組合回答ゾーン（3月13～17日）」に、可能な限り多くの組合が回答を引き出すべく交渉配置するとともに、あらゆる状況を想定してスト権の確立や労働委員会の活用、その他の戦術が速やかに取れるよう、闘争体制の点検・整備などの指導を強化する、との闘い方が確認されました。

また、連合本部は、要求・回答集計の公表に合わせて記者会見を実施し、賃金相場の形成と社会的波及に努めること。特に、第1先行組合の回答集計を公表する3月17日は、部門別共闘連絡会議との合同記者会見とし、部門ごとの回答引き出し状況を広く社会に波及させるよう努める、との進め方が確認されました。

◎「トヨタのみならず、産業全体への思いを持って回答する！」

トヨタの佐藤恒治次期社長は1月22日の労使交渉で、「トヨタのみならず、産業全体への思いを持って回答する！」として、賃上げ（ベア）と一時金の満額回答とあわせて、正社員だけでなくパートタイマーの賃金も引き上げる考えを示しています。

一方、ホンダも記録が残る1990年以降で最速の回答を示しました。経営側はスピードだけでなく、若手への重点配分にもこだわり、大卒新卒者の初任給は月251,000円と現行から23,000円増額となる回答を示しました。若手社員からは、「安心して働いてほしいという会社のメッセージだ」と歓迎しているとの報道がありました。ホンダの賃上げ率は総額約5%で、連合目標の5%程度をクリアしています。

すそ野の広い自動車大手が交渉序盤で満額回答を示すことで、大企業より賃上げが難しいとされる中小企業や社会全体の波及も期待されています。

以上

※ 全労金HP (<http://www.zenrokin.or.jp/>)
facebook (<https://www.facebook.com/zenrokin>) もご覧ください！
※次号は2月27日に発行します！